

【黙示録6章9節～11節】

しもべ仲間の数が満ちるまで、もうしばらくの間…
と言われます

黙示録 6:11

すると、彼らの一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

1. 復讐は神がなさるものです

さて、前回までで「第一の封印から第四の封印まで」を学びました。今回は「第五の封印」について学びます。

4頭の馬が出現し、世界を駆け巡っています。

子羊は、続けて、すぐ「第五の封印」を解かれます。ここは「間髪入れず」に解かれるようです。

黙示録 6:9

子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

「第五の封印」が解かれたとき、ヨハネは「祭壇」を見ました。そして、その下に「殺された者にたましい」がいるのを見たのです。

この「たましいたち」が誰を表わしているのか、と言うことについては、例によって様々な意見があります。

多くの人が、彼らは「旧約時代の殉教者たちだ」と言います。

「いや、患難時代にいのちを落とす聖徒たちだ」と言う人もいます。

また「全世界の全時代の殉教者たちだ」という意見もあります。

「旧約時代の聖徒たちと大患難時代に殺される人々のたましいだ」と言う人もいます。これは、ちょっと、難しいですね。私には、よく分かりません。個人的には、これからを含む全時代の殉教者たちなのではないかなあとthoughtしたりしています。いずれにせよ、彼らが「神の忠実なしもべたち」であったことに間違いはありません。そのような彼らが大声で叫んで言うのです。

黙示録 6：10

彼らは大声で叫んで言った。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。

彼らは「地に住む者たちへの血の復讐」を求めていました。
自分たちの血が不当に流されたことに対して、正当なさばきを要求しているのです。
新約時代の聖徒が「復讐を求める」などと言うことはないので、これは「旧約時代の聖徒だ」という解釈もあるようです。そうかもしれませんね。
ただ、私たちは覚えていなければなりません。
神は「さばき」を必ずなさいます。
神は「愛」なのだから「復讐」などという恐ろしいことはなさらないと言う考えは間違っています。
イエス様は言われました。

ルカ 11：50～51

それは、世界の基が据えられたときから流されてきた、すべての預言者たちの血の責任を、この時代が問われるためである。アベルの血から、祭壇と神の家の間で流されたザカリヤの血に至るまで。」そうだ、わたしはおまえたちに言う。この時代はその責任を問われる。

旧約の時代に神に忠実であった人々の「血」は、無駄に流されたわけではありません。主は、その一人ひとりの忠実さを覚えておられます。そして、必ず「その責任を問われる」のです。また新約時代の聖徒の「苦しみ」をそのままにして置かれることもありません。

II テサロニケ 1：6～7

神にとって正しいことは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。

ですから、私たちは「すべて」を御手に委ねることができます。

神が「正しい方」であることを知っているので、自分の「正しさ」を主張して生きる必要はありません。

神が「報いてくださる方」なので、ことさらに「報酬」を求める必要はありません。また「報復」を企む必要もないのです。

ガラテヤ6：7

思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

蒔いた種は「必ず刈り取る」のです。肉に蒔けば「滅びを刈り取る」のです。御靈に蒔けば「永遠のいのちを刈り取る」のです。それが、変わることのない「法則」なのです。

私たちは「蒔くもの」に注意して歩まねばなりません。黙示録を学ぶ目的の一つは、そのことを心に留めることです。

Ⅱペテロ3：10～11

しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ落ち、地と地にある働きはなくなってしまいます。このように、これらのものはが崩れ去るのだとすれば、あなたがたは、どれほど聖なる敬虔な生き方をしなければならないでしょう。

私たちは「終末」について学びます。すべての「働きはなくなってしまう」ことを知ります。

それは、何のためにでしょう？

それは、この地上で「聖なる敬虔な生き方」をするためです。

私たちは「御靈に蒔き続け」なければなりません。「永遠のいのち」は私たちのものです。

崩れ去るものに「執着」せず、「天にあるもの」を見つめて歩みましょう。

2. すぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血

殉教者たちは「祭壇の下」にいます。「祭壇」とは「犠牲の子羊」が屠られる場所です。天の祭壇では、ただ一度だけ「主イエスの血」が注ぎかけられました。

ヘブル9：26

もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかつたでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。

天の祭壇の下で叫んでいる人々にも、「イエスの血の注ぎかけ」があったであろうと私は思います。

ゆえに「彼らの一人ひとりに白い衣が与えられた」のでしょう。

「第五の封印」が解かれたのは、彼らに「白い衣」を与えるためなのかもしれません。これは「子羊の血で白くした衣」のことでしょうか。

「白い衣」を与えられた人々に、主は「言い渡され」ました。

黙示録6：11b

そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

つまり、まだまだ「殉教者」が増えるということです。

今後も殉教者が増えることは確実なのです。

第五の封印は、殉教者についてですが、これからも殉教者が増えて行くということを示しています。ディビッド・バレットという有名なイギリスの統計学者が私に送ってくれた資料によると、1900年時点では平均約三万五千人の殉教者がいました。1985年には、年平均三十五万人の殉教者に増加しています。10倍に増えたわけです。2000年の統計では、五十万人に達するのではないかと思われています。殉教者は減るどころか増えているのです。

世の終わりが来る 奥山 実著 マルコーシュ・パブリケーション

さて、今は2025年ですから、2000年当時より、もっと殉教者が増えているであろうと推測できます。

しかし正確な殉教者の数を把握することが困難です。ただ、迫害下に置かれているクリスチヤンの数が毎年、増加していることは確かです。

全体（2024年現在）として、3億6千500万人のクリスチヤンが迫害または差別の激しい諸国に住んでいる。これは全世界のクリスチヤンの7人に1人にあたり、アフリカでは5人に1人、アジアでは5人に2人、ラテンアメリカでは16人に1人にあたる。Christianity Today の記事から

神が「正しい方」であることは、先ほど学びました。主は、彼らの「たましい」を見過ごすことはされません。

神のさばきに「不正」はありません。「不当」なことも一切ありません。怒りを注がれる方に「反論できる者」は誰一人いないのです。

しかし、神の怒りは、まだ注がれません。終わりの日は、まだ来ていません。

愛する兄弟姉妹。

主は、今「忍耐」しておられるのです。今は、まだ「いつくしみと忍耐と寛容の日」なのです。

ローマ2:4

それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐を軽んじているのですか。

御父は、今「忍耐」しておられるのです。

それは「だれも滅びることなく、すべての人が悔い改めに進むこと」を望んでおられるからです。

主の「いつくしみ深さ」は、人々を悔い改めに導くのです。

今まで「不当に血を流された人々」は「大声で叫んで」います。

アベルの血は「大地から」叫んでいます。アベル以降のすべての血が、主に向かって叫んでいるのです。

もちろん、主は、それらの「叫び」を聞いておられます。彼らの痛み、苦しみ、嘆きを知つておられます。しかし、それでも「待ちなさい」と言われるのです。

なぜでしょう？

ヘブル12:24

さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

「注ぎかけられたイエスの血」が「語って」いるからです。

「注ぎかけられたイエスの血」は、アベルの血よりも「すぐれたこと」を語ります。

アベルの血は「不当な扱いをされた」「正当なさばきをしてくれ」と叫んでいます。

では、御子イエスの血は何を叫ぶのでしょうか？

ルカ 23：34

そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

御子は、御父に祈られました。

「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのです」

御子イエスの血は「赦し」を呼びます。

私たちの「とりなし手」である方は、今、手を広げて御父の前に立っておられます。

そして、「父よ、ご覧ください。わたしの血です。どうか、今は、まだ、彼らをお赦しください。もうしばらく、もうしばらくお持ちください」と懇願してくださっているのです。

御父は、激しく怒っておられます。

愛する御子を痛めつけられたことに対して…

また、御子をうちに宿した「神の子たち」に対する仕打ちに対して…

いつまでも「神を神としてあがめない人々」に対して…

しかし、愛する御子イエスの血の呼びが、御父の耳に届いています。

「父よ、彼らをお赦しください」

そして、御父もまた、その「とりなし」を望んでおられるのです。

I テモテ 2：4～5

神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一です。神と人との仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。

イエス様こそ、神と人との「唯一の仲介者」なのです。

愛する兄弟姉妹。

主イエスが、両手を上げて「とりなし」でおられることを覚えてください。

今は「まだ」終わりの日ではないのです。今は「いくつしみと忍耐の日」です。今は「恵みの時、救いの日」です。今は「まだ」そうなのです。

であるならば、私たちのるべきことは「一つ」です。

イエス様と一緒に立ち上がりましょう。両手をあげて祈りましょう。

「御父よ、どうかお赦しください。御子の血をご覧ください。どうか、私たちの国をあわれんでください。彼らは何をしているのか分かっていないのです」

イエス様の血の注ぎかけを受けた私たちは、イエス様と「一つ」です。
子羊イエスの血をほめたたえます。その贖いを感謝します。キリストの愛のうちを歩みましょう。私は、キリストの心を祈る者とされたいと切に願っています。

3. 子羊の御怒りの大いなる日が来ます

しかし、「いつくしみの日」が終わる時が来ます。

黙示録 6:17

神と子羊の御怒りの大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。

「御怒りの大いなる日」がやって来ます。

「だれがそれに耐えられよう」と人々は言います。もちろん、その答えは「だれもそれに耐えることはできない」です。

「誰も耐えることのできない御怒りの日」つまり、大患難が始まる日が必ず来るのです。

それは「神の怒り」に「子羊の怒り」が加えられる日です。

人々の叫びを聞いてください。「神」と「子羊」の怒りの日が来たと言っています。

使徒ヨハネは、わざわざ「神」と「子羊」の怒りの日であると書き記したのです。

いつの日か、イエス様が「とりなし手」ではなく「さばき主」として立ち上がる日が来ます。

「子羊イエス」が御父の向かい側ではなく、御父と同じ方向を向いて「さばき」を行われる日が来ると言うことです。

御父は、さばきを行う権威を御子に渡しておられるのです。

ヨハネ 5:27

また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。

御父の怒りに、子羊の怒りが加えられる日、それが患難時代の幕開けであると私は思っています。イエス様が語られた、ぶどう園にあるイチジクの木のたとえを思い出してください。主人は、実を結ばない「いちじくの木は切り倒してしまえ」と言いました。しかし、番人は主人に言います。

ルカ 13:8~9

番人は答えた。「ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを彫って、肥料をやってみます。それで来年、身を結べばよいでしょう。それでもダメなら、切り倒してください。」

主人は御父の型です。そして、この番人はイエス様の型です。(聖霊様とも言えますね)

今は、まだ、イエス様は「とりなし」を続けておられます。聖霊様は、地上に聖徒とともにおられます。

今は「深いいつくしみと忍耐の日」が続いているのです。

しかし、いつの日か「御怒りの日」が訪れます。

ローマ2:5

あなたは、頑なで悔い改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。

神は「怒り」をなくしてしまわれたのではありません。「忍耐」をしてくださっているのです。今は、御子イエスのとりなしのゆえに「忍耐」を続けてくださっているのです。

「頑なで悔い改めない人々」は「怒り」を蓄えているだけです。御父は「罪」を見過ごす方ではないからです。

ですから「今」が大切なのです。

私たちは、救われていない人々のために祈りましょう。たましいの大収穫がもたらされることを信じて祈りましょう。多くの人が必ず終わりの日の前に「覚醒」すると私は信じます。そして、また、私たちは互いのために祈りましょう。

ヘブル3:13~14

「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかりと保ちさえすれば、です。

愛する兄弟姉妹。

終わりの日が近づいている「今」、「心を頑なにしない」ことが大切です。神の声に素直に応じる聖徒が必要です。

一人ひとりが「聖霊」の御声に耳を傾けて歩めるように祈りましょう。だれも「落ちて」はありません。

私たちは、みな一緒に「天の故郷」へ行くのです。

私たちは「日々、互いに励まし合い」ましょう。私たちには「祈り」が必要です。

あなたのため、私は祈ります。そして、私にも、あなたの祈りが必要です。

気落ちしている兄姉、前に進む元気のない兄姉、下を向いて歩いている兄姉のために祈りましょう。

終わりの時代には「人々の愛が冷める」のです。

しかし、私たちは「愛を燃やして」歩みましょう。

主の「いつくしみと忍耐の日」を無駄に生きてはなりません。

多くの殉教者が「いのち」を奪われても手放さなかった「神のことばと証」を、私たちも掲げて歩みましょう。

イエス様の「血」が語る「赦し」を宣言しつつ歩みましょう。

神の御子を信じる「信仰の勝利」を宣言しましょう。

私たちは、全世界の、全時代の信仰者の一員なのです。

ヘブル 12：1

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一歳の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競争を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

一緒に走りましょう。

祝福を祈ります。